

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -1	2022/12/9	A third of New Zealand's Navy ships are docked over lack of crew	3番目のニューージーランド海軍艦船が乗員不足でドック入り	Defense News 2022/12/9	 ニューージーランド海軍が乗員不足から、艦艇の一部を非可動状態にして運航要員を確保しているようです。どこの海軍も船乗り不足に悩まされているようです。我が海自もFFMや哨戒艦を大量建造するのは良いのですが、それに伴う運航要員を確保できるのか心配です。来年は陸自から海自に定員が振り替えられますが、座布団が増えても生首が伴わないと・・・	佐々木司
2023 -2	2021/4/26	Unmanned Systems, Passive Sensors Help USS John Finn Bullseye Target With SM-6	無人システムのパッシブ・センサーが「ジョン・フィン」の SM-6による標的 命中に貢献	USNI News 2021/4/26	 2年前の記事 です。対水上戦では、従来の自艦搭載センサー(organic sensor sensor)よりも、UAVなどの無人センサーからの情報を入手してターゲティングし対艦ミサイルを発射することを米海軍は真剣に考えています。巻末の読者 コメントの論争付き。	岩崎洋一
2023 -3	2022/12/1	The Eyes of the Fleet: Distributed Maritime Operations in the First Island Chain	艦隊の目 (Eyes of the Fleet Fleet) : 第一列島線における分散海上作戦 (DMODMO)	Proceedings 2022/12/1	 プロシーディングス誌12月号から、米国のDMO(分散海上作戦)の一環で、ターゲティング用のセンサーを第一列島線沿いに分散配備してネットワーク化せよという主張です。	岩崎洋一
2023 -4	2023/1/3	Iran Building Drone Aircraft Carrier from Converted Merchant Ship, Photos Show	イランが商船を改造したドローン空母を建造中、写真で判明	USNI News 2023/1/3	 ドローン専用の空母を初めてイランが建造しているという記事です。	岩崎洋一
2023 -5	2022/4/1	Stand-in Forces: Adapt or Perish	スタンド・イン・フォース: 適応するか、滅びるか	Proceedings 2022/4/1	 海兵隊のEABO 構想の中の「スタンド・イン・フォース」の考え方がよくわかる論文です。 海兵隊は第二次大戦中の 島嶼 上陸コンセプト を捨てて、新しいコンセプトに大変換して脱皮することを考えています。事前に 島嶼沿いに分散・上陸して、相手に見えないところから長射程対艦攻撃をするというのが基本です。けれども、巻末の読者コメントにあるように、反対の意見も多くあります。 また、敵が島嶼沿いに核 兵器を使えば、機能するかどうか？ 敵が 核兵器 を使えるかどうか？ など予測 不能な 部分もあります。プロシーディングス誌 2022 年 4月号から。	岩崎洋一
2023 -6	2022/4/1	Amphibious Black: Guerrilla Warfighting in the Maritime Domain	アンフィビアス・ブラック: 海洋ドメインにおけるゲリラ戦	Proceedings 2022/4/1	 EABO構想を実現するために様々な選択肢が考えられていますが、これは 一昨年に行われた演習から筆者たちが得た教訓をまとめた考えのようです。DD × 1、LPD × 1、海兵歩兵中隊 (180 人) × 1、シールズ小隊 (16 人) × 2からなる「アンフィビアス・ブラック」という部隊を編成し、シールズ を事前投入して 活用しようとするものです。 プロシーディングス誌2022 年 4月号から。	岩崎洋一
2023 -7	2022/2/1	A Maritime Strategy to Deal with China	中国に対処するための海洋戦略	Proceedings 2022/2/1	 戦略予算評価センター(CSBACSA)の所長トーマス・マーンケン博士による対中国戦略です。前半 6ページまでは 戦略の一般論ですが、7ページから具体論に入り、9ページ以降にインサイド・フォース(スタンド・イン・フォースとも やアウトサイド・フォースの考え方が示されています。米海兵隊総司令官バーガー大将の EABO 構想をはじめとした最近の戦略を裏付ける内容です。 プロシーディングス誌2022 年 2月号から。	岩崎洋一
2023 -8	2023/1/10	CNO Gilday to Shipbuilders: 'Pick Up the Pace'	ギルデイ海軍作戦部長から造船業者へ :「ペース アップせよ」	USNI News 2023/1/10	 防衛予算が倍増した日本も、これから この記事 と同じようにならなければいけないのですが。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -9	2023/1/1	Mighty Mo Hard on Sand	マイティ・モー(戦艦「ミズーリ」)の座礁(座洲)	Proceedings 2023/1/1	 戦艦「ミズーリ」も1950年に座礁しています。この時は引き出すのに大変だったと想像されます。 プロシーディングス誌1月号 から	岩崎洋一
2023 -10	2023/1/10	RAND Comments On DDG(X) Next-Generation U.S. Navy Destroyer	米海軍次世代駆逐艦DDG(X)に関するRANDのコメント	Naval News 2023/1/10	 米海軍が計画中の次世代駆逐艦DDG(X)に関する研究者に対するインタビュー記事です。DDG(X)が保有予定の能力、整備予想隻数、能力コンセプトなどが語られています。日本もそうですが、計画検討が進むにつれ段々能力と経費が上昇しそうです。計画時に艦の生涯を通じた維持整備を重視すべきとの所見は我々艦船建造に携わる者として重要な視点だと思います。	佐々木司
2023 -11	2023/1/11	To shipbuilders who think they can build more, CNO says: 'Prove it'	より多くの艦船を建造できている造船所に対し、CNOは「それを証明せよ」と述べる	Defense News 2023/1/11	 米国では海軍の艦船就役計画に対して造船所の建造ペースが追い付いていない状態です。特に2023年度は議会がDDG3隻を認めたのに対して現状での建造ペースは年1.8隻で、潜水艦は年2隻調達に対し、就役は年1.2隻です。この現状に米海軍CNOは危機感を持ち、艦船建造業界が集まる会議の席上で、業界に対して発破をかけました。記事にそれがにじみ出ています。	佐々木司
2023 -12	2023/1/1	Lessons from the Changing Geometry of PLA Navy Carrier Ops	中国海軍の空母運用の地理的(ジオメトリ)変化からのレッスン	Proceedings 2023/1/1	 米海軍の元情報士官が、中国空母の動き(ジオメトリ)からその作戦を分析しています。 プロシーディングス誌1月号 から。	岩崎洋一
2023 -13	2023/1/18	Lockheed floats laser weapon LLD for future LCS upgrade package	ロッキードは将来のLCSアップグレードパッケージ用としてレーザー兵器LLDを想定している	Breaking Deffense 2023/1/18	 ロッキードは、LCS搭載用モジュール搭載としてレーザー防御兵器を狙っている模様。しかし、LCSは早期除籍が決まっている中で、ドローンなど安い兵器等、急変する戦闘模様への対応が求められるためか？	清水隆
2023 -14	2023/1/16	NASSCO Pitches ESB Drone Mothership Variant To US Navy	NASSCOが海軍にドローン母船型ESBを売り込む	Naval News 2023/1/16	 遠征海上基地(ESB)を建造しているNASSCOから、ESBをXLUUVも運用できる各種ドローン母船として運用するコンセプトが発表されました。船底開口部に回転式の発進揚収装置を設置し、XLUUVを運用するものです。併せて飛行甲板を耐熱仕様としてF-35BをESBに搭載して戦域まで輸送し、その後強襲揚陸艦に移動させるコンセプトも発表されました。	佐々木司
2023 -15	2022/11/1	Hyundai Heavy Industries presents the HDP-2200+ OPV design	現代重工業が HDP-2200+ OPV 設計を発表	European Defense Review 2022/11/1	 船体規模は、哨戒艦を若干大きくした程度、兵装は76mm砲、CIWS等が搭載、1隻あたり105億円(110円/\$)です。哨戒艦は1隻90億円弱なので、輸出はかなり厳しいと予想されます。また、詳細不明ですが技術移転が付帯されているようなので、我が国の装備移転も単純に艦船の輸出だけを視野に入れるのでは済まなくなると考えられます。	川原梅三郎
2023 -16	2023/1/9	The Royal Navy's Astute class submarines: Part 1 - development and delivery	英海軍の Astute 級潜水艦: パート1 - 開発と引渡し	Navy Lookout 2023/1/9	 英海軍のAstute級潜水艦の建造秘話とも言える分析記事です。2021年のAUKUS(豪英米三国間の軍事同盟)締結以前には、唯一米国が原子力潜水艦技術の移転を許した英国ですが、冷戦終結を契機にして、一時はその建造基盤が大きく衰退したようです。そして、今日に至るまでに、如何その再建をしてきたかを垣間見ることができる文献です。教訓としては、一度失われた建造基盤の再建には、非常に大きな代償が必要ということが挙げられると思います。また、今も英海軍全体に悪影響を及ぼす事柄として、国防省側の艦船計画能力の欠損も、大きな後悔のように紹介されています。一方で、計画の大幅な遅延は、当初の目標を愚直に達成するための費消時とも解釈でき、英国の粘り強さを示すものとも見ることができます。我が国で斯様な事業を放棄せずに完遂できるだろうか、とふと考えてしまいました。他山の石とも言える教訓が多くある、本テーマの続編にも注目していきます。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -17	2023/1/18	Team Resolute formally awarded contract to build Fleet Solid Support Ships	Team ResoluteはFleet Solid Support Shipsを建造する契約を正式に獲得しました	Navy Lookout 2023/1/18	 <p>Fleet Solid Support Ships(FSS)3隻の建造に関して、Team Resoluteコンソーシアムが正式に契約したとのことです。タイド級補給艦は、韓国の大宇造船海洋で建造しましたが、今回は、英国内の雇用創出も考慮した形になっています。これから具体化していく、詳細設計やコンソーシアム内の協業態勢の構築が、如何に進展していくのか、注目していきたいと思います。</p>	本山泰之
2023 -18	2023/1/14	India's DRDO And Naval Group To Upgrade Submarines With AIP	インド国防研究開発機構とNaval Groupは潜水艦をAIPにアップグレードする	Naval Times 2023/1/14	 <p>インド海軍が仏Naval Groupの協力を得て建造したScorpene級潜水艦にAIPを搭載するそうです。インド軍は潜水艦をフランス、ロシア、ドイツから買っており、戦闘機はロシア、対潜哨戒機はアメリカから買うなど、東西分け隔てなく気に入ったものを購入する傾向があるようです。いろいろな国から購入すると維持整備は結構大変ではないでしょうか？</p>	佐々木司